

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 事業 委託 補助用 )

## I 基本事項

		整理番号	1337
事業名	三原公民館活動事業		会計 一般会計・1
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課	款 教育費・10款
電話	0799 - 43 - 5038		項 社会教育費・5項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目 公民館費・2目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		社会教育法
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり	
	まちづくりの目標	情熱と生きる喜びあふれるまち【生きがい】	
	施策目標	仲間との絆を深め、情緒やセンスを磨く、芸術文化活動・スポーツ活動を盛んにする	
該当する事業について「 」を選択		施策的事业	業務委託
			負担金補助

## II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	対象(誰を・どのような状況の人に)		
	南あわじ市民	対象人数(人)	
		53,374	
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	
		市民の個性豊かな創作活動の振興を図るとともに、発表の場を提供する。そして、それら市民の手によって創作された優れた芸術品を鑑賞することによって、『こころ豊かな』人間性を養い、芸術性のある魅力あるまちづくりを展開する。また、多様な芸術的創作活動を通じて地域における次世代の芸術文化を担う人材を育てることが目的である。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)	
		『であい・ふれあい・まなびあい』をテーマに公民館講座を実施している。初心者であっても、熟練者であっても、同じ境遇で学べる機会を提供しており、講座を通して受講生同士の仲間作りを目指して事業を実施している。 三原文化団体 文化芸能祭事業 文化展出展：30団体340点 文化祭出演：27団体524名	
背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)		
	文化芸能祭の開催など、市民のより地域に根ざした文化芸能活動の場と機会が提供されている。 また、余暇時間を有効に活用し、文化サークルなどの活動へ参加したいという市民の意向は高くなっている。多様なニーズにあった講座を開講し、市民の生涯学習への意識の向上に努めている。		
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ( )	
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)		
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併以前、各旧町ごとに異なっていた講座開設の形態の統一を図った。具体的には、講師料の統一(17・18年度：8,000円/回、19年度：6,000円/回)をはじめとし、受講によってある程度習熟者のできた講座については、同好会に移行してもらうといった統一を図った。		

## Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	三原公民館講座開講数			指標単位 講座
	指標説明 (指標算出方法等)	年間回数が5回以上の講座を対象とした開講率を表す指標。			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	27	23	13	8
	実績値	26	17	11	
	達成度 (%)	96.3	73.9	84.6	-
目標値設定の考え方	実際に募集した講座数を目標値として設定。				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	三原公民館講座受講者数			指標単位 人
	指標説明 (指標算出方法等)	年間回数5回以上の講座を対象とした募集定員に対する受講者率を表す指標。			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	645	430	275	190
	実績値	446	310	229	
	達成度 (%)	69.1	72.1	83.3	-
目標値設定の考え方	開講講座の募集定員を目標値として設定。 (応募が少なく開講していない講座は除く)				
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	直接事業費 (千円)	4,307	2,152	1,935	1,352
	公民館講座謝礼	3,480	1,601	1,284	746
	公民館講座チラシ費	75	149	79	79
	文化展 パネル設営・撤去費	149	99	116	93
	菊花展 展示場設営・撤去費	200	200	200	200
	その他	403	103	256	234
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他	1,038	442	430	430
	一般財源[A]	3,269	1,710	1,505	922
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
事業量1(事業に要した日数)					
事業量2(事業に要した人数)					
年間経費([A]+[B])	3,269	1,710	1,505	922	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.1	0.0	0.0	0.0	
受益者人数(1,174)1人当り経費(千円)	2.8	1.5	1.3	0.8	
経費に関する補足説明	一般財源のうち、『その他』には開講講座の受講料に加えて、三原文化芸能祭『ふるさとの味(ちょぼ汁)』の収益30千円を計上している。受益者人数は、『講座受講生+文化展出展者数+文化祭出演者数』としている。				

## IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	96.3	73.9	84.6	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 達成度を見ると、概ね予定講座は開講されているように考えられる。だが、18年度の達成度の落ちた点に注目すると、ちょうどこの年度は、『大人と子ども』の共有講座に重点を置いた時期となる。『子ども』を対象とすることに重きを置きすぎて、開講できなかった講座が目立ったのが実情で、利用者のニーズを捉えきれていなかったといえる。課題としては、利用ニーズも汲みつつも、生涯学習のきっかけとなれるような講座を考えていくべきである。					自己評価 (5点評価) <b>3</b>
有効性	成果指標目標達成度	%	69.1	72.1	83.3	-
	成果向上率	%	-	30.5	26.1	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 市という広い枠組みで旧町を問わず講座生が集まっており、以前の公民館講座と違い、それぞれのコミュニケーションなり、旧町になかった分野の学習ができています。					自己評価 (5点評価) <b>4</b>
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	125.7	100.6	136.8	-
	効率性増減率	%	-	20.0	36.0	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 現在、南あわじ市内の公民館の中で類似の講座がいくつが存在している。内容・レベルの差異はともかく、受講生の分散を考えると、そのような講座はコスト面からみても非効率であるといえる。〇〇の館特有の講座というようなウリではなく、南あわじ市の公民館一本の講座として企画していくのが今後の課題といえる。					自己評価 (5点評価) <b>3</b>
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低				
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 市民のニーズに反映しており、長年開講していても受講生が多いため、これからも開講を継続する必要性はある。					自己評価 (5点評価) <b>4</b>
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 講座により受講者数のばらつきがあることから、利用者ニーズを十分把握しながら講座開設をしていく必要がある。また、安価な受講料が公民館利用の一メリットであるが、受講料についてもコスト面からの運営を検討していかなければならない。 次に、開講講座について、長期にわたり多数の受講者に人気のあるものがいくつかある。講座からサークルへ移り、講座生が自主活動会員へ移っていく流れの中で、そういった長年続いている講座が今後も講座としてあり続けるとも考えられる。ただ、そういったものにしても、講座の対市民効果など多角的に見直しながら、今後、南あわじ市一本の講座を他館と合同で企画していかなければならない。					<p>評価グラフ</p>

## V Action&amp;Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	各館の講座で重複しているものや人数の少ないものは市一箇所で行うなどにより、市民ニーズを切り捨てるのではなく拾い上げをして、講座を開設する。	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<b>仮に</b> 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 各館の講座の重複をなくすことにより、経費が安くなるが、一方で受入れ人数や地域性、教室までの距離などで問題が生じないように調整が必要である。	